

書写通信

姫路工業大学
アメリカン
フットボール部
O B 会 報

TO OLD BLUE LINERS

2000 第2号 [新春号]

2000年 1月 1日
編集責任者 匠 宏之
兵庫県相生市双葉 3-2-4

無念2部昇格ならず

入替戦、岡山大学に一步およばず3部Aブロックのリーグ戦を4勝1分で終了し単独優勝を決めた我が姫路工業大学ブルーライナーズは12月5日西宮球技場にて2部Aブロック6位の岡山大学と入れ替え戦を行った。ここ10年来では2度目の入れ替え戦出場であり、前回2年前の時の対戦相手も岡山大学だった。このときは圧倒的な力の差を見せつけられ退けられた。今年の挑戦では健闘するものの6対21で敗退し悲願の2部昇格は達成できなかった。



4Q 岡大ゴール前まで迫るが岡大ディフェンスに阻まれる

入れ替え戦までの道のり＝リーグ戦短評
序盤ではミスが若干多いように思われたがラン、パス取り混ぜた攻撃力は毎試合大量得点を上げてきた。特に得点源はWR桃沢へのパスでキャッチしてからランが驚異的だった。ランプレーでは主将FB坂本の中央ランが有効だったが後半では足の負傷から本来の力を発揮する場面は減った。そのかわりQB山口のキープ、大型SB尾田のオープンが確実にゲインを重ねた。ディフェンスはシーズンが深まるに従って尻上がりに調子が上がってきた。課題だったLBの前への上がりが良いとなりチームの安定感が増すことにつながった。

9月 5日	42対13	岡山理科大
9月19日	68対0	兵庫医科大
10月10日	48対6	神戸商船大
11月 6日	26対3	姫路獨協大
11月13日	0対0	鳥取大

我、岡山大学とかく戦えり

ヘッドコーチ 金谷祥治(平成4年機械科卒)

我々の属する3部リーグAブロックは、パワープレイ重視のランのリーグです。そこそこのランオフense・ディフェンスは存在しますが、それだけでは上位のリーグに上がっていくことが、困難であることは最近10年の歴史が証明しています。

そこで、昨年より我々はパスオフenseも重要視しラン&パスのどちらでも得点でき、ランパスをバランス良く守るディフェンス作りを進めてきました。具体的には今年は、オフenseではワンバックからのバランスアタックを、ディフェンスは、43体型から、セカンダリーの動きのバリエーションが豊富なディフェンス作りを目指しました。

岡山大学は、先ず1stシリーズから我々のディフェンスを崩しに来ました。タイミングの異なるパスをフィールド全域にちらし、ランもバランス良く混ぜてきました。我々の経験したことのないゲームプランです。また、ブリッツを多用しようとしていたこちらのプランもタイミングコールのスタートで思うように効果が上がりません。その上ミスタックルなども出てしまいズルズルTDを取られてしまいました。しかしこれと言った驚異的なプレーがあるわけで無く、この取られ方はあくまでフロントからのプレッシャーのかけ方を工夫すれば、徐々に止まると思いい、タイミングやブリッツの入れ方等の小さな変更で、対応することになりました。一方オフenseではフアンブルが続き1Qはフィールドポジションを改善できず結果2本のTDを許しました。

その後2Qに入り相手が通常のプレースタイルに入るとディフェンスが安定してゆきゲインされるもののスコアさせることなく、どうやってオフenseが点を取るかにゲームの行方がかかってきました。相手はWR桃沢君の7ydより深いゾーンを常に2人でカバーしています。ランプレーも2~3ydまで出るものの、ダウンラインの大きな動きのせいかセカンダリー陣を完全捕まえることができず大きなゲインにつながりません。そこで、WR桃沢をデコイに使ったフラットへのパス、TE、SEのフラットからアンダーのパスを指示しますが落球などでゲインが得られず結果的にオフenseが、機能しなくなりました。しかしその中でも、一年間を通して学生自身が積極的にに取り組んだキッキングゲームがTDを含む良い結果を出したことが、ゲームメイキングに大きな役割を果たしてくれました。ただ結果的にオフenseは最後までスコアできず21-6と敗戦を喫しました。

この敗戦により、2部昇格の目標は果たされませんでした。多くのことを学びました。そして、練習中の些細なミスが大きな試合で出てしまう怖さを再確認しました。新しいチーム作りは、選手の特徴や能力を冷静に判断し取り組まなければならないと思いますが、最終的にどんなチームにならなければならないか、コーチも選手も再確認する良い糧にし、更なる挑戦をはじめたいと思います。

坂本主将からのお礼のあいさつ
今年の1年間は今までの3年間より本当に早く短いものでした。しかし、有意義であったと4年生一同感じていると思います。これも、OBの方々チームの為に時間を費やして下さいのおかげだと思います。

今年は2部昇格の目標は達成できませんでしたが、来年こそはと新4年生をはじめ、新3年、新2年生はもう既に始動しています。この者達に、さらなる声援をお願いいたします。最後になりましたが、この1年間本当にありがとうございました。

学生コーチ座談会 シーズンを終えて

ことしのブルーライナーズの躍進は留年生、大学院生の学生コーチの活躍抜きには語れない。せいぜい参加できて週一回の社会人コーチでは限界を感じていたが、今年の在学OBである彼らは平日の練習にも参加し選手に密着した指導を行い明らかにOBではなくコーチという立場で自分たちの仕事を全うしてくれた。そんな学生コーチ4人に集まっていたいただきシーズンを振り返って感想を述べてもらった。

学生コーチは板挟み。

匠(司会)以下匠 今年の冒頭、去年の反省をふまえ学生コーチ主導でのチーム作りを目指すことが提案されたわけですがこのことを聞いてどのように思いましたか。

山本晋以下晋 そうですね、その時は方向性としては非常にいいことだと思いました。でも実際やってみてこれは大変なことやと思いました。一言で言うなら板挟みとでも言いますか。

匠 学生コーチが主導という限りは立場的にも社会人コーチと対等で方針やゲームプランの決定権も学生コーチにゆだねるといふところが目玉だったんですがそのへんはどうでしたか。

晋 実際のところ決定権と言われても何を決定すればいいのかピンと来なかったです。(笑)

熊田 学生コーチ主導といっても実体は社会人コーチと選手との橋渡し役として機能していて、そこで晋が言ったように「板挟み」に陥ったと思います。自分たちもそうですが僕たちはコーチだと言いつつも実質はOB意識が抜けてなかったし、選手にしてもコーチとOBはどう違うんだ、コーチとはどんな風に使えば良いのかということ戸惑っていたと思う。

晋 選手にとっては特に判りづらかったんでしょう。

熊田 僕ら自身もそうだったんですが、例えば選手に何かをアドバイスするときコーチとして発言なのかOBとしての発言なのかで悩みました。やはり社会人にしる学生にしるコーチというものがうちのチームに現れてまだ浅く初期の段階ですから選手、コーチとも混乱した面があります。

匠 そんな混乱も含めて具体的な反省点としては？

熊田 僕らは社会人コーチに比べたら時間的には遥かに選手と関わっている時間は長かったんですがやはりそれでも不十分でありゲームプランやチームの方針決定の深い部分につこんで行くことできなかった。

晋 ゲームプランのところは僕らも入っていかなければならなかったんですがどうも選手(4回生)に遠慮してしまっていたところがあります。

水上 遠慮というより諦めもありましたね。こうした方がいいと思えばアドバイスしても学生の意図は別のところにあると反応が返ってこないケースがありますよね。そういうのが続くと「言っても無駄かなー」と思いだしてしまっただけでなく、本当に伝えないといけないことはやっぱり言い続けなくてはだめだと。

↑



熊田博康(通称ジョージ) ライン担当。現役時代のポジションはセンターとN G。彼もホークアイに参加。選手登録しているため週末はホークアイの練習に参加するため工大でのコーチングは平日のみとなっている。大学院生。

↓

匠 それは社会人コーチも気を付けなアカんとところでチームに関わっている時間が少なくても変な遠慮せず伝えていくべきなんでしょう。

晋 関わっている時間は選手がどう受け取るかですね。実のところ今年やはり選手にとってはコーチの関わり方が不十分に感じていたようで、シーズン途中から4回生主導でチーム作りをしようという動きがあり結果としてその流れのまま進みましたから。

匠 今の体制では例えばコーチは練習メニューを決めるようなところまで入って行けてないよな。そこで取った方法は4回生の各ポジションリーダーに自分たちのユニットの目標を設定させコーチはその進捗を客観的にチェックし方向性や息詰まったときのアドバイスをするというやり方になったんですが実際やってみてどうでした。

羅川 オフェンスラインパートの今年の目標は去年に引き続き「しつこいブロック」だったんです。結局アドバイスとしては「足を細かく駆け」みたいな同じことばかり言ってしまうマンネリになっていたかもしれません。足の運び方については選手によって意識してくれている人は成果のチェックができるんですが、あまり成果が上がっていない選手に対してはもっと別の方面からアドバイスすればよかったと思う。

水上 実はLBのパートでははっきり目標を聞いていませんでしたがLBパートリーダーのマサル(前田副将)が彼の方からこういうところを見てほしいとか判らない箇所を聞いてくれたのでそれに対してアドバイスできました。

晋 パートの目標を把握し客観的にチェックすることはなかなかできませんでした。

*一年生を教えるのは本当におもしろい

匠 では話題を変えてコーチをやっていてよかったことは？

晋 チームの一員として優勝して喜べたとき。

羅川 サイドラインで迎えた優勝はうれしかったけど本当はプレーヤーの時に喜びたかったという気持ちもありました。

水上 僕は別のところやっけてよかったことがありました。一年生を指導できたことです。春はずっと一年生のコーチングに専念できたので彼らの日々成長する姿が目当たりできたのがなによりうれしい。一年生は吸収がはやく彼らも真剣になんでも聞いて来るので「よーし、あいつ

(右上段へつづく) ↑



水上弘龍

ディフェンスコーチ。主にLBを担当。現役時代のポジションはローパー。

現在社会人チーム全日空ホークアイに参加。ホークアイでの守備ノウハウをフィードバックする。

らのためにも今日も練習に行くぞ」という気持ちになってました。

また毎年うちのディフェンス特にLBはあかんと言われていたんですが、ディフェンス担当して指導していったLBの動きが試合毎に良くなっていくのを見るとこれもまたうれしかったです。

熊田 平日練習のみの参加で試合も見に行けなかったんで、良かった点といえるものが少ないのは残念でした。ただ水上も言っていたように練習の中で一年生の成長度合いを見ると、これは学生コーチでないと出来ない仕事だと思いました。もし水上が一年生を指導してないければ本当に上級生（4回生）は大変だったと思います。彼らは自分たちがやるべきことに専念しなくてはならないし。

晋 上級生にとっては1年生に接する時間が短かったと思うんですが、学生コーチが指導できたことはそれを十分上回る成果を出したと僕も思います。来年もぜひ学生コーチが1年生を教えるべきで1年間を通して専任で一人コーチを付けても良いくらいだと思うんですが。

羅川 確かにいると思う。せつかく僕らが教えてもフォームが良くなってきても上級生と一緒にちょっと複雑なドリルをやりに出すととたんに教えたフォームが出来なくなってるんですよ。

水上 僕も一週間ばかり練習に行けずに久しぶりに行ってみると「お、お前らどうしたんやー。全然教えたことがむちゃくちゃになっとるやないかー。」ってのがありました。（笑）

*コミュニケーションをとって信頼関係築く

匠 では来季にコーチとなる来年の大学に残る学生に送るアドバイスは？

晋 やっぱいいかに選手とコミュニケーションをとるかということですね。前にも水上が触れたんですが選手に任せることと諦めることの違いですね。僕も途中であまり選手に言わなくなったところがあるんです。僕の気持ちのどこかに

「僕らの意図を越えたプランが選手達の間にはあるんだろう、だから僕の案はボツになったんやろう。」と思いきもうとしたことがあるんですよ。結局選手への準備の方が僕らより勝っていると思うから、あえて選手には言えないという気持ちが出たんでしょう。この点ではもっと選手とコミュニケーションをとって選手の考えを正確に把握することが大事です。

↑



羅川毅史（せりかわ）

ライン担当。昨年度主将。現役時代のポジションはガードとDE。現役時代からもくもくと自分のプレーをこなしてきたタイプ。コーチとなった今年も自分の身体でプレーを見せる指導法を行ってくれた。

↓

匠 それと選手と信頼関係を築くというのも大事だと思うが水上なんかはマサルとうまく築けていたんと違う？

水上 そうですね。僕の場合マサルとはつい一年前まで一緒に同じポジションでプレーしていたというのもあるし、その時から僕が教えたりすることもあったんでコーチと選手になった今年も違和感なく行けたと思います。

晋 そういう意味ではオフェンスを担当した時、自分が経験したRBからの立場でしかQBにアドバイスできませんでした。これではなかなか信頼関係を築くところにはいきかないですよ。

匠 確かにテクニック的なことは言いくいかもしいけれど、これも考え方の問題やけど、じゃあやったこと無いポジションには教えられないのかと言えばそうじゃ無いと思う。

2年ほど前にライン出身の僕もQBをコーチしたいと思いNFLのコーチング本を訳して練習方法とかを取り入れよう試みたことがある。結局選手の方から現実的でないという指摘からうやむやになったんだけど、いろいろ勉強にはなった。

熊田 結局そういったものがバックボーンになりコーチとしての発言に自信が持てるようになるんでしょう。

匠 最後に今日同席してもらった社会人コーチも一言ありましたらどうぞ。

田中角栄コーチ 信頼関係の築き方ですが、やっぱりいきなりコーチが練習メニュー決めたりしてもなかなか選手に受け入れてもらうのは難しいと思う。まずやらなあかんことは選手とコーチのフットボール観を統一すること。京大が毎日長いミーティングを行っていることは戦術的なこともあると思うけど、結局選手同士や選手とコーチ間のフットボール観を同じにするためなんかなと思う。

金谷ヘッドコーチ 今年の学生コーチは本当に良くやってくれたと思います。本当に強いチームにするには強固なコーチ・スタッフがいるのは間違いない。その意味でも学生コーチの組織化は今年一年で終わらせるのではなく来年も続けていかなくてはだめです。また4人ともチャンスがあればぜひ社会人チームでプレーヤーとして経験すればさらに視野が開け、学生コーチの時は判らなかつたことも見えてくるんで、その後ならなお結構。そんな人材が増えれば、シーズン最終戦で目標を達成し喜び騒ぐ現役選手たちから少し離れたところで、コーチたちがいろんなOB達より祝福される喜びの輪ができるんじゃないでしょうか。



山本晋（通称ススム）

オフェンスコーチ。現役時代はRBとDBを経験。そのためRB、QBのコーチを担当。2年生の時セーフティとして出場した岡山大との入替戦では力の差を痛感。今年は技術、戦術の両面に対抗できるよう指導に努めた。

新幹部のご挨拶

九十九年十二月十一日に二千年度の幹部が決まりました。新チームはすでに始動を開始しました。

そんな新主将、副将から決意を述べてもらいます。

主将 今井秀典（LB）

来季の主将をさせていただきます。来季こそは二部昇格が果たせるようチーム一丸となってがんばりますので、よろしくお願いします。

副将 毛利彰宏（OT、DT）

来季の副将をさせていただきます。主将の今井をささえて来季こそ二部昇格出来るようがんばります。

副将 竹村周平（CB）

四回生十一人が抜けて、多くのポジションが空き、若い顔ぶれとなります。春、夏の練習試合で各個人が多くの経験を積み、勉強し、来シーズンに突入する予定です。一戦、一戦強くなっていく、そんなB U L U E L I N E R S にしたいと思います。

昔の俺、今の俺**

やっぱり書写通信はOB会報紙ですからOBのみなさんが主役なのです。そんなわけでOBのみなさんの懐かしいお話と近況をお伝えするコーナーをスタートします。第1回は昭和45年卒業の覚田信一さんと昭和55年卒業の川原崎さんの2人に登場していただきます。今後は投稿者の紹介によりこのコーナーの登場者をつなげていきます。



昭和55年に電気工学科を卒業した川原崎益宏です。

学生時代はQBをしていました。私の入学は昭和51年で当時の同級生は4名のみ。ちょうどQBを作る学年で、一番体の細い私がQBとなりました。私は卒業当時でも身長177cm、体重57kgと大変細く、(現在は178cm、66kgと若干太くなっています)肩の弱いQBでした。

学生時代は大した成績も収められませんでした。が、FOOTBALLを忘れられず、卒業後も名古屋のクラブチームに参加し、その後転勤を繰り返しながら色々なチームで41歳になった現在までプレーを続けています。社会人になってからは、メンバーが少なかったこともあり、オフライン以外のすべてのポジションをプレーしました。学生時代はQBしかプレーしていませんでしたが、他のポジションをプレーすることがQBにとってもいい経験になったと感じています。

現在は嫁さんの生まれ故郷の静岡市に家を持ち、静岡FALCONSというチームに所属してプレーを続けています。静岡県には社会人のクラブチームが3チームしかなく、特に静岡市で活動しているのはFALCONSのみです。そういった訳で、チームには若い人からオヤジまで、未経験者から甲子園ボウル経験者までと、様々なメンバーが集まっています。

若い連中のプレーを見ていると、まだまだ私だって十分に出来るなと思いつつも、昨年11月に痛めた右膝の影響もあり、試合に出るのは少々怖くなってきているのも事実です。しかしながら、試合に出られなくても体力維持のため、今後も練習だけは続けていきたいと考えています。

私は静岡に住み、姫路はおろか関西方面へも足が遠のいてしまいましたが、OB会の設立を期に、先輩の方々、後輩の面々と交流が持てたらと思っています。今シーズンは卒業以来初めて後輩の試合を見に行きました。今後も年に1度位は試合を見に行けたらと思っています。また、グラウンドでお会いしましょう。

添付した写真は一昨年の秋に名古屋のクラブチームと対戦したときの写真です(No.7が私です)。次に寄稿していただく方としては、私の2年先輩にあたる、現役時代QBだった藤原さんをお願いできればと思います。入部したてのころ何も知らなかった私に色々教えていただきました。特にアポイントは取ってありませんし、現在何処に住んでおられるのかもわかりませんが、できたらお願いしたいと思います。



覚田 信一 昭和45年金属材料工学科卒です。

現役時代のポジションは、オフェンスではライト・ハーフ・バックNo.48(今で言うならランニング・バック?)、ディフェンスではライン・バッカー、当時は部員が少ないので(大概の学校も同じ状況ではあったが)オフェンスとディフェンスの掛け持ちで大変でした。

現役時代の思い出は山ほど、創部して初めての合宿が岐阜県高山市、合宿の最終日思わず涙をこぼした〇〇君。公式戦での初めての勝利、相手は何処だったか?。神鍋での京大との合宿、乾コーチの暖かいご指導、馬車馬とよばれた大岡先輩の突進力、△△君の徹底切斷など力の差を見せつけられた合宿でした。

現在は岐阜県大垣市北部の田舎で、家内と男2人女1人の3人の子供と5人家族、長男は京都住まい、長女は清水市で下宿中の為、3人での静かな毎日を過ごしています。

就職後は何かスポーツをしたいとの思いから就職先でサッカー一部の創部に加わり昭和60年電子機器関係の会社に転職までの間ハーフバックやスイーパーをやっていました。その間地元の小中学校でサッカー少年団創設に加わりその指導員&レフェリーとして現在まで15年間関わって来ました。

フット・ボールはフット・ボールでもアメフトへの思いは捨てられず母校の兵庫県立星陵高等学校のアメフトOB会主催で平成元年より毎年(1月中旬)神戸ユニバー記念競技場でポート・ボウルが開催されるようになり、第3回より参加しております。ポート・ボウルは同じ兵庫県の西宮市立高等学校の現役とOBそれぞれの対戦が主体で私は30歳以上の超OBの部で現役の頃と同じポジションで出場させて戴いております。なんとか60歳を超えるまでは頑張りたいと思っています。

高校時代から一緒にアメフトをやった川崎さん、彼が居なかったら姫路工大アメフト部の創部は無かったと思います。最近はどうされていますか。

メールアドレスおしえて下さい

書写通信を御覧のOBのみなさん、会社やご自宅のパソコンに電子メールアドレスがございましたら、下記メールアドレスまでご連絡下さい。昨シーズンはブルーライナーズの全ての試合結果をメールで流してお好評価頂いています。今後も試合結果に限らずブルーライナーズのホットでタイムリーな情報はメールで発信していく予定です。

匠 宏之 e メールアドレス : htakumi@d2.dion.ne.jp

次号は3月下旬か4月上旬に配信予定です。	5月に開催予定のOB総会の議題についてお知らせします。	OB戦・OB総会のお知らせ	間違いなし	戦のお供として保存版	ルを一挙に紹介。試合観	で全選手のプロフィール	新2年生から4年生まで	ナイズ全選手紹介	2000年ブルーライ	次号予告
----------------------	-----------------------------	---------------	-------	------------	-------------	-------------	-------------	----------	------------	------

編集後記
 ※入替戦は本当に残念でした。チームが強くなり組織も出来つつあってもそれはそれで今更で無かった悩みも出てきます。
 ☆しかし当日の観客席は本当に多くの人が見に来てくれてびっぴりしました。ほとんどが同ブロックの敵チームなんですすがやっぱり多くの観客の前でゲームをするのは良いことです。